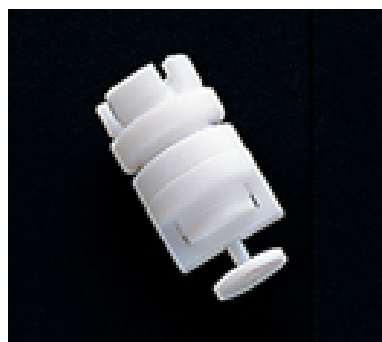


突沸防止器 (セフティキャップ) PAT.



C-1 型 (標準タイプ)

キャップの先端に弁を装備して、クーラー側と試料フラスコ側に圧力差が生じ突沸が起こる前に弁を閉じ、圧力差がなくなると弁が開きます。



C-2 型 (ロケットタイプ)

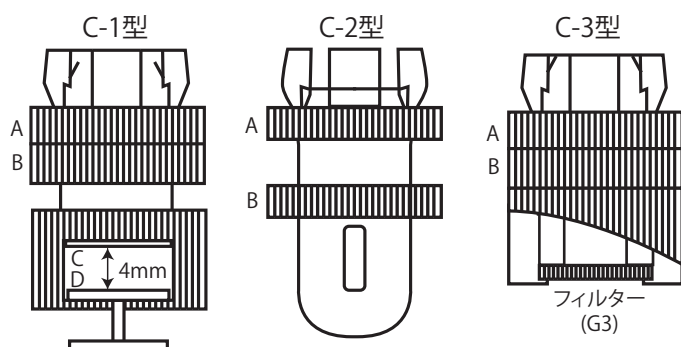
蒸気を半球部にあて、フラスコ内を効率よく対流させて簡易的に突沸を防止します。比較的突沸力の弱い物質に適しています。



C-3 型 (フィルタータイプ)

ガラスフィルター (G3) で急激な圧力変化を和らげて突沸を防止します。結晶試料を乾燥させる場合などの粉体の飛散防止にも有効です。

突沸防止器 (セフティキャップ) 装着方法



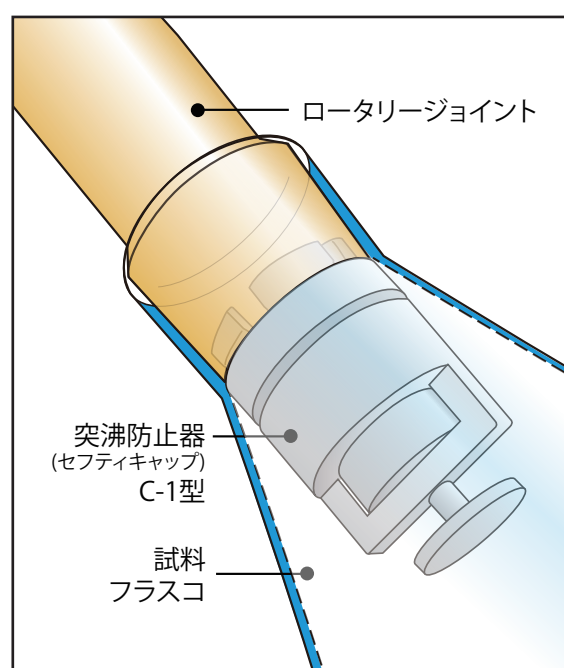
(装着方法)

- ① 本体 B を割りツメ A のスリット丈の半分程の位置にして、ロータリージョイントに本品を挿入します。
- ② A を指で固定し、B を適度な締付感が得られるまでネジを締めます。
- ③ 本品とロータリージョイントを折る用にして緩み感が無ければ装着完了です。

(着脱方法)

- ① 本体とロータリージョイントを下方に折るように力を加えていくと簡単に取外しができます。

突沸防止器 (セフティキャップ) 装着例



※ロータリージョイントの適用内径は20.2±0.5mm 以内です。緩かったり、挿入しにくい場合は B を回して微調整してください。

C-1 型の使用法

突沸の激しい溶媒や試料の使用時やトラップ球を利用しにくい 500mL、1L、2L のナスフラスコの使用時に最適です。

C と D の間に最大 4mm の間隔があります。突沸の程度は吸引装置の強弱や溶媒や試料によって異なります。

最初は 2mm ほどの間隔でご使用ください。その後、突沸の程度により間隔を調整してください。

濃縮装置内の圧力差で D が閉じますが、なかなか圧力差が等しくならず、D が開かないことがあります。その場合でも D に開けてある小孔で濃縮は行なわれています。D を強制的に開く時は濃縮量を減らす操作を行なってください。

例：キャピラリーよりエラーの注入、濃縮機の回転を遅くする、湯欲を下げてフラスコの接面を少なくなるなど

C-2 型の使用法

比較的突沸力の弱い溶媒や試料での使用時に最適です。(装着方法)に従ってお使いください。

C-3 型の使用法

直径 15mm、厚さ 3mm のガラスフィルター G3 が装着されています。(フィルターは交換することができます。)

結晶試料の乾燥時の飛沫防止、発泡性試料の濃縮機内上昇の抑制に効果を発揮します。(装着方法)に従ってお使いください。